

サンポポだより

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——

vol. 33
2020 夏号



すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成6年版)より 詩／坂村真民「空の一角から」 画／海野阿育

坂村家のアルバム

vol.3

母の夢

あなたが亡くなる前から
初めてみるふしぎな夢
あなたのそばにいるのは
まだ小さいわたしひとり
人も通うぬ

目がすっかり覚めたら
そのお姿がやきつけられて
ゆめとうつつとの区別が
しづらくなつきませんでした

さびしい小川に泣うね
墓地のなかで

あなたはをしばっこは

童子の墓にかけ

乳が多くておしが出すぎと

苦しもうにひとりじつを言いたから

まっ白いおしを

墓石にかけてまわらゆるのでした

ああその時のあなたの

言葉しかつたこと



朝鮮にて 母・タ子60歳



母からの最後の葉書

真民の母タ子さんについて紐解いてゆきたいと思います。タ子と書いて「たね」と読みますので、手紙には「種」あるいは「タネ」と記し、実に筆まめな方でした。

さて、詩「母の夢」のタ子さんの姿は、真民が三歳とも四歳の頃とも書き残していますが、幼い昂にの瞼に焼き付いている実際にあったある光景なのです。

真民44歳の5月16日、タ子さんは72歳、脳溢血で急死しました。電報が来て急遽熊本に帰り、茫然自失の状態です。初めてみたお母さんの夢、それを詠んだ詩の前半を紹介しています。それは、二歳下の妹・郁子さんが生まれた頃の出来事です。もともと美しかった母——こうも表現していますが、昂にの目に映った母の姿は、後年真民が大慈大悲の世界に導かれてゆくその源泉であると言えます。

「わたしを支えてきたもの」という63歳の詩では、この光景を次のように語っています。

「あゝ、今にいたるまで 大きくわたしを支え 導き励ましているものよ 愛にあふれた名画のように。名画のように」とは真民らしい表現で、心に響く絵画に出会うために美術館を訪ねることが大好きな人でした。

家族五人で初めて熊本の実家を訪ねたその1か月半後、お婆ちゃんはこの世から居なくなつたのです。でも幼い私にはお婆ちゃんの「死」というものはわからず、いつも家族全員で祝う誕生日に一度だけ父親が不在だった、「とうちゃんのないかった誕生日」としてだけ記憶に残りました。その5月20日、父はまだ熊本で悲しみに暮れていたのだと知つたのは、ずっと大きくなってからのことです。

文／西澤真美子

真民詩は万華鏡のように、読む人によって違った姿を見せている。

森 光子 (59歳) 元・えひめリビング新聞社勤務

私は坂村真民記念館がオープンするにあたって、「公式ガイドブック」や「漫画・坂村真民」の編集、ポストカードや一筆箋などの制作に携わりました。その経験を通じて感じたことを、少しばかり書かせていただきます。



◆やさしい言葉ゆえに

真民さんの詩はやさしい言葉で書かれており、リズム感があつたり、オノマトペが楽しかったりする作品もあつて、子どもから年配の方まで幅広い年代層に愛されています。

ある時、同世代でも人によって心に響く作品が随分違うものだと、気づいたことがあります。真民詩には、家族愛をうたったもの、自然の営みに目を凝らしたもの、人生訓や内省的なものなど多様ですが、読み手の人生経験や思索のあれこれによって、本質のとらえ方や詩の好みがかなり異なると思つたのです。誰の作品もそうですが、真民さんの詩はとりわけその傾向が強いのではないかと。

というのも、やさしい言葉ゆえに、私たちはわかつた氣になつて読んでいますが、やさしい言葉の背景には深遠な世界が広がっています。真民さんが掴んだ真実の世界は、そうやすやすとは理解できない宇宙的・宗教的な広がりがあり、そこから紡ぎ出された詩は、読み手次第で深くなつたり強くなつたりするわけです。真民詩は万華鏡のように、読む人によって違った姿を見せているのではないのでしょうか。

でも、こんなことは氣にしくなくていいこと。真民さんの世界はあまねく人を温かく迎え入れ、その扉をたたいた人の心の支えになることを本望として

るので、自分なりの読み解きでマイ真民詩を見つけるのがよいのだと思います。

◆「かなしみ」を主題にした詩

私は大学生のころ、どう生きるべきかという古典的な人生の悩みを抱えて、暗中模索の青春を送りました。当時、心を打つ作家や芸術家の言葉を書き留めていたのですが、最近そのノートを引っ張り出して見たら、高村光太郎やワーズワースなどに混じつて、真民さんの詩が2篇、書かれていました。たまたま見つけたものでしょう、一つは「中勤助先生の眼」、もう一つが「悲」。

「悲」は20歳前後の若者が書き留める詩かと苦笑しますが、実は今も「かなしみ」を主題にした真民詩が大好きで、それら一連の詩から、仏教の「悲」が情け深さを意味すること、自分の悲しみが慈悲になり、愛が生まれることを知りました。「悲」の詩にある「一木一草宇宙全体が 相助け合つて生きていることが 手に取るようにわかつてきた」とは、なんと素晴らしい境地でしょう。少しでも近づきたいと願わず

にいられます。

こう振り返ると、真民記念館に関わる仕事は、私にとって必然のめぐりあいだったと、ありがたいご縁を感じます。

悲

長く生きていることは
無駄ではなかったと
しみじみ思う年になつた
見えなかったものが
聞こえなかったものが
見えだし聞こえだしたもの
ありがたい喜びの一つだが
一番大きな喜びは
色々の悲しみを知つたことだつた
小さな虫たちの悲しみから
大きな獣たちの悲しみまで
風のように感ずることができ
一木一草宇宙全体が
相助け合つて生きていることが
手に取るようにわかつてきた
悲しみが愛となり
愛が戦争と平和と
どう繋がつてゆくか
そんなこともわかり
長く生きていてよかった
更に余命を大事にしよう



ふかきをきわめ、あさきにあそぶ —今学ぶ真民詩の世界—

現在開催中の開館8周年記念特別展「鎌倉・円覚寺黄梅院の掲示板の詩～横田南嶺老師と坂村真民の心の交流～」展(8月23日まで開催)の初日の2月22日に砥部町商工会館で横田南嶺・臨済宗円覚寺派管長による記念講演会が開催されました。「ふかきをきわめ、あさきにあそぶ」と題し、約300人を前に真民詩の魅力を語られました。



坂村真民先生の詩の力、言葉の力はどこから来るのだろう。それは真民先生が表現された「ふかきをきわめ、あさきにあそぶ」。深いところを究めた上で、私たちにも分かりやすく大事なことを表してくださるから、心に響くのだと思う。

真民先生の詩の深みは何の深さか。「わたしの愛する字」という詩に記された「愛」「真」「念」「光」「気」という五つに深さを求められたのだろう。

第一に何といっても「愛」、赤裸々な愛情の深さ。真民先生の詩の一番の魅力だろう。ご家族を愛し、死産されたお嬢さまの誕生日であり命日である日を忘れて「すまなかった」と繰り返し詩を作られている。こうしたところに人間・坂村真民の姿と魅力、深い愛を感じる。

第二に「真」の深さ。真実を求めて一筋に生きようとした。それは鳥が飛び、花が咲くように、自分の生き方をする。真民先生はお釈迦さまを一番の手下とし、深く禅を学ばれた。お釈迦さまのように生きた一遍上人の志を継ごうと決意し、詩誌「詩国」を配った。宗教や国を問わずキリストや画家のミレーら、真実を求めて生きた人に共鳴した。

さらに真実を求め、心に強く思い続けることを「念」と表現された。念じれ

ば雨がやむというような特別なことを起こす力ではない。雨の日は雨の中で生き、いつか雨がやむと信じて待つ。この「信じて待つ」気持ち、「念」に一番近いのではないか。

真民先生は何を念じられたのか。闇を「光」に変えていくこと。つらく苦しんでいる人たちの闇の世界を光に変えていくことだろう。心の世界である。

光もさまざまある。太陽のように自ら光を放ち、周りを照らす生き方もある。だが皆が皆できるかといえば難しい。ならば光を受けて光る。真民先生は砥部に移り住んでから毎日、川原で朝日を浴びられた。光を浴び、光を吸って「すべては光る」という詩の世界を開かれた。誰にも必ず光るものがある。そう信じて待つのが念ずるという心だろう。太陽の光を浴びるとどうなるか。元気になり、気力が満ち、やる気、気迫が出てくる。愛情を持ち、真実を求め、念じ続け、光り輝くものを信じれば、現実の体と生き方に「光」の力が働く。90歳を超えて非常な体力、気力を保たれた真民先生は、そのことを自ら体現されている。

愛、真、念、光、気の深さを究めながら、真民先生はそこにとどまることはなかった。詩「遠い道」にあるように、私たちの

「かなしみとよろこびの渦巻くところ」へ戻ってこれられ、私たちの力になるような分かりやすい詩を作ってくださった。

「あさきにあそぶ」の「あそび」は単なる娯楽や享楽ではない。人々のために分かる言葉を用い、悲しみや喜びの渦巻くところで寄り添うこと。それも眉間にしわを寄せ苦しいことに耐え忍びながらでなく、何事も喜び楽しみながら、悲しみと喜びを共に分かち共に生きる。そうした生き方を真民先生は「あさきにあそぶ」と呼んでおられたのではないか。

真民先生の詩は、風に吹かれるタンポポの種のように日本、世界の多くの人のところへ飛んでいった。私たちも志を学び、受け継いでいかねばならない。

一輪の花に愛情を注いだら、鳥のように真実を求めて生きていこうと思ったり、そこに真民先生の詩の世界が現れてくるだろう。詩集を開き、真民先生の心に触れてほしい。

素晴らしい生き方を実現された真民先生の真骨頂と呼べる「ただ」「ほればれ」という詩がある。「ふかきをきわめ、あさきにあそぶ」とうたわれた最後に到達したのは「ただ」「ほればれ」という世界だったのではなからうか。

2020年3月15日付愛媛新聞より

『鎌倉・円覚寺黄梅院の掲示板の詩展』会期延長のお知らせ

新型コロナウイルスへの対応で、3月～5月は県外の方や団体の方々がキャンセルされる事例が多く、横田南嶺老師の「掲示板の詩」を、安心してゆっくりと見てもらうことを考えて、この特別展の会期を8月23日(日)まで延長することとしました。

それまでに、新型コロナウイルスが収束しておりますことを祈り、皆様が安心してご来館できますよう、心から願っております。

企画展のお知らせ

「坂村真民のまなざし ～坂村真民が見つめていたもの～」

開催期間 2020年8月29(土)～2021年2月14日(日) 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

まなざしを
変えるい限り
戦争は起こり
平和は来ない
憎しみの心を
捨てるい限り
争いは絶えなく
幸せは来ない
無差別平等の
宇宙のまなざしを持つ
新しい人間の
出現を祈ろう

● 仏のまなざし

坂村真民が
敬仰した人のまなざし

● 真民が最後に辿りついた「宇宙のまなざし」～真民93歳の詩

いつか心は
わたり仏さまの処へ行こう
矢つたものを取り戻し
仏さまの清いものにし
濁らぬ心清いものにし
軽い体になりたいかうです
何もかもまなざしに下さる
あの柔らかなまなざしを仰ぎたいと
いつか心は明かりともうこきあす
そして生きこゆく力があふまき

● イエスのまなざし

マルタとマリヤ (真民83歳)
聖書に出てくる
マルタとマリヤの話は
何度読んでも心にしみる
わたしが聖書に
こころひかれ出したのも
マルタとマリヤの話を
読んでからである
二人の姉妹に話をされる
キリストの
何という優しさであろう
夕暮れてゆくベタニヤ
灯りがついてゆくベタニヤ

ようこそ 坂村真民記念館へ

～わたしたちスタッフがお待ちしています～ (五十音順)

ご来館いただくみなさまに、真民さんの詩の世界に浸りながら心地よく過ごしていただけるのが、スタッフの願いです。何なりとお気軽にお声かけください。



真民詩の魅力は言葉です。言葉には力(パワー)があります。悩み傷ついた人、頑張っている人を静かに励まし、寄り添ってくれる力強い詩。人生を豊かに進むために、心の琴線に触れる詩を見つけにいらしてください。

今年で記念館に来て8年目になります。初めての展示作業で、直筆の「わたしの詩」を見た時、真民さんの力強い気持ちが伝わってきて私もこの詩と共に頑張ろうと思ったのを思い出します。みなさんも元気をもらいに来て下さい。朴の花と共にお待ちしております。



金澤 愛



河野 麻美

今年の4月から坂村真民記念館で働いています。吉田町出身ですが坂村真民さんについてまだ知らないことが多く、慣れないことからご迷惑をおかけしますが、皆様が気持ちよくお迎えできるよう励みますので、ぜひ記念館へお越しくださいませ。

スタッフやボランティアガイドの方々に助けられながら、記念館の学芸員に就きまして、4月で7年目となりました。これからも皆様に勇気と元気を届けられる様な企画展や「タンポポだより」を目指して精進して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



篠原 志乃



武丸 和代

砥部町で小中高と育ち、真民さんの詩は小学生の頃から知っています。今は町外に住んでいますが真民さんの詩に再会出来て嬉しく思います。記念館周辺には砥部焼伝統産業会館や創作館、酒蔵や窯元等があります。周辺地域を巡って頂くのもオススメです。

これまでに企画展・特別展を22回開催していますが、原則として展示作品を替えています。何回来ても新たな発見がある記念館を目指して頑張っています。どうぞ皆さんお誘いあわせでご来館ください。お待ちしております。



樋口 玲子



西澤 孝一

坂村真民記念館を応援しています

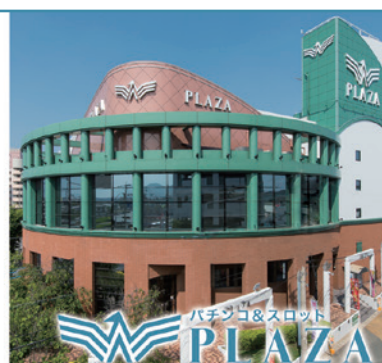


ホテルクリオコート博多

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



To-be

介護付有料老人ホーム トゥービー

介護付有料老人ホーム
To-be

78個室/20㎡～24㎡(1F&2F)

M To-Be

住宅型有料老人ホーム モンレーヴ砥部

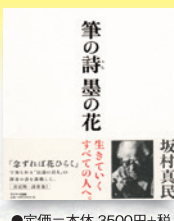
住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

18個室/2LDK 40㎡～90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

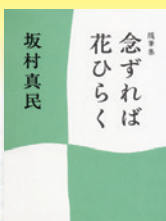
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

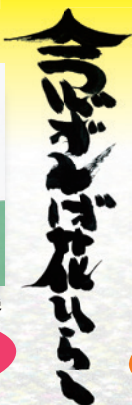
坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!



10万部突破の
超ロングセラー!

詩集
念ずれば花ひらく



詩集●定価=本体各1000円+税

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 二度とない人生だから



詩集 宇宙のまなざし



広告募集中

「タンポポだより」に広告を出してくださる企業・団体等を募集しています。

〈広告料〉

1段(タテ60mm×ヨコ170mm) …… 年間10万円

2段(タテ125.5mm×ヨコ170mm) …… 年間20万円

3段(タテ191mm×ヨコ170mm) …… 年間30万円

■年間発行部数／2,000部(年4回発行)

■送付先／友の会会員、県内社会教育施設、県内旅行・観光業者等
その他、記念館の来館者に配布

「タンポポだより」の発行費用は、この広告料で賄っています。

それによって、友の会の会員の皆様からの会費は、

タンポポだよりの送付料や記念館の活動経費に充てることが出来ます。

記念館の活動を充実させるためにも、広告料収入が必要不可欠です。

どうぞ、このような趣旨をご理解くださり、広告掲載へのご協力をお願いします。



坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 特典 会員証で入館無料1人 ほか
年会費2000円

一般会員 特典 会員証で入館無料1人 ほか
年会費5000円

特別会員 特典 会員証で入館無料2人 ほか
年会費10,000円

法人会員 特典 会員証で入館無料2人、
年会費10,000円 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉

とうとう全世界が、新型コロナウイルスの脅威にさらされる事態になりました。その予防の第一が手洗い・マスク着用との事。実に人間的作業に、AIの進化にも5Gの世界にも付いて行けない私には、ありがたいやらどこか不思議やら…(真美子)

タンポポだより vol.33 夏号

令和2年6月1日発行

発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり